



御遠忌テーマ

親鸞さま、なぜ、お念仏なの？

— 出会おう、語ろう、今ここで！ —

生命を継ぐ者は
生命を捧げまくる

住持 花見

あるがままを生きる

宇宙物理学者が言う「宇宙」と
仏教が言う「宇宙」とはどこが違う
うでしょうか。宇宙物理学者の
宇宙では「私」が除かれています
ね。それに対し、仏教的宇宙は、
私も含めての全体です。それは
「如」なる世界。そこでは、ある
がままが、あるがままを、ある
がままに動いている。「あるが
まま」とは、言い方を変えると
「自然」とか「本来性」です。
それがお釈迦さまの自覚の内容
です。

ところが私たち人間は「思い」
で生きています。50人おれば50
人、皆、違う思いで世界を見、
違う人生観を生きています。
「世の中とはこんなものだ」とか
「人生とはこんなものだ」とか。
アリストテレスが言ったらしい
んですけど、人間は教えられ
ていないのに、皆、幸せになり
たいと思ひ、幸せになるにはプ
ラス価値をいっぱい集めねばな
らぬと思ひ生きています。し
かし、この思いは末通りませ
んね。健康がいいと思ひいても、
いつかは老にたかまり、病につ
かまり、最後には死にます。こ
の思考方法ではマイナスの事実

が受け取れないですね。

仏さまはどう言っているかと
いうと、「あなた、あるがまま
を、あるがままに生きなさい。
それが一番自然であり、本来の
在り方ですよ。苦しいのは、本
来性を失って不自然な在り方を
しているからです」と。

殻を破って大きな世界に

あるご婦人が「先生、最近、
腰が痛くなつて…。年取ったら
何もないことない」と。私は聞
くのが仕事だから、一生懸命聞

お念仏のこころを尋ねて

田畑正久先生

(宇佐市・佐藤第二病院院長)

2019年1月12日

聞いていますが、あまり楽しくな
いね。こういうのを愚痴と言
うんです。「あなた、80歳まで腰
は痛くなかったの？」80になっ
て、はじめてです」「それは、
すごいね！ それなら、80歳ま
で痛まなかつた腰に御礼を言わ
なきゃ」と言ったら、「そんなこ
と考えたこともありません！」
と。そこでですね。私たちが当
たり前としていることは、本当は
当たり前ではなかつたと、気づ
くかどうか。

細川先生はそのことを卵の喩
えで教えて下さいました。私た
ちは自己中心の思いの中で、損
得・善悪・勝ち負けに振り回さ
れて生きています。それは卵の
中に閉じこもっていることと同
じです。そのままであれば卵は
腐ってしまいます。卵は腐って
死ぬために生まれてきたのでし
ょうか。親鳥に抱かれ、親鳥の熱
を受けて、卵を割って大きな世
界に生まれ出るために生まれて

きたのですね。その親鳥の熱が
教えです。南無阿弥陀仏の教え
です。
だから、南無阿弥陀仏の教え
のこころは何かというと、「あ
なた、小さな殻を出て大きな世
界を生きなさいよ」と、「あな
た、不自然な在り方をしている
んじゃないかって、自然な在り方
を生きたことが大事ですよ」と、
私たちに善き師、善き友を通し
てはたらきかけてくるのが、お

念仏です。

驚いて聞く

法然上人は「なぜ、南無阿弥
陀仏か」と問いを立て、仏さま
が考え出したことだから推し測
ることなどできませんが、と一
度ことわつたうえで、あえてそ
のお心を推し測れば、何より念
仏は簡単であるからだ。お念
仏なら、たとえ寝たつきりにな
つてもできますね。それから、お
念仏には法蔵菩薩のご修行の功
徳が満ち満ちているからだ、と
こう答えています。

皆さん、この問答、納得でき
ますか？ 念仏について、「意
味はよく分からんが、ともかく
簡単だし、功德が満ち満ちてい
る」と、こう言われても、「ハ
イ」と納得できますか。ここが
問題ですね。そこには、私たち
は自分を凡夫と思ひていない、
偉いと思ひているということが
あります。
仏教の話の聞いても受け止め
方に二つあるんです。細川巖先
生の卵の話の聞いて、「それ、
もう聞いたことあるわ」という
のは知識として聞いているんで
す。私は22歳のとき初めて聞い
ただけで、驚いたんです。私

の生き方を凶星で言い当てられた、と。だから私は先生に質問したんです。「どうしたら、そういう大きな世界に出られるのですか？」と。先生は「一年続けて下さい」と。それで一年続けたら、先生は「三年続けたらわかりますよ」と。三年続けるうちに「ああ、仏教というのは一生聞いていく教えなんだ」ということがわかりました。これがよかったですね。自分の身に引き当てて驚くのか、知識として覚えていくのか、それで仏教のひびきが違ってくるんです。

全体的な思考

私たちの考え方は計算的な思考ですね。それに対し、仏さんの目覚めの世界は全体的な思考、根源的な思考です。計算的な思考は「HOW WHAT」です。私の学んできた医学でいえば、人間の体はどのようにできているかを調べて、人間を把握し、それで病気を治そうとする。つまり人間の体を管理支配しようとする。これはどうしても局所的な狭い範囲の専門家になっていきやすいですね。

たとえば不妊治療。医学生物学で妊娠のからくりを説明する

ことで不妊症の患者さんかなり子どもを持てるようになりました。それは子どもが生まれるからくりが判ったからです。だけれども、人間に生まれた意味はあるんですかという問いには、何にも答えは出してくれません。

全体的な思考というのは、ものの言うことを聞く。管理支配しない。「あるがままを、あるがままに見る」ことです。たとえ思い通りにならぬことにならなくても、これは私に何を教えるようにしているのかと考えていく。善いも悪いも、皆、私を支え、教え、生かそうとしている、二人称的に切っても切れない関係なんだと、受け止めていく。

清沢満之先生はそれを「天命に安んじて人事を尽くす」と言われました。住岡夜晃先生は「宿命を転じて使命に生きる」。それを自由というと言われました。わがまま勝手に自由ではありません。本当の自由は、自分に与えられた状況の中で精一杯生きていけることです。

良寛さんは地震で子どもを亡くした友人に「災難に逢う時節には災難に逢うがよく候。死ぬる時節には死ぬがよく候。これ

はこれ災難をのがるる妙法にて候」と手紙に書きました。私たちは都合の悪いことをうまいことぐぐり抜けて生き延びようとしませんが、必ずどこかで捕まりますよ。捕まった時に、これが私の引き受けるべき現実だ、ナンマンダブツと、それを引き受けて精一杯生きさせて頂く、それが仏教が教えてくれる人生でないでしょうか。

仏さんがいらつしやる

昭和60年頃、私は中津国立病院にいたんですが、その頃は枕元に仏書を置いていた人が多かったですね。それで、そういう人が病院で仏教に出会ってくれたらいいなと思い、ビハーラ研究会というのを立ち上げました。

その時、細川先生に、「亡くなっていく患者さんにどういう言葉をかけたらいでしょうか」と質問したことがあります。先生は「おまかせする」ということをしつかり言っておきなさい」と。それから「仏さんがいらつしやる」ということをしつかり言っておきなさい」と。聞法して十数年経っていましたが、私は「仏さんがいらつしやる」と言えなかった。あらためて「仏さ

んがいらつしやる」とは、どういうことか」と考えさせられました。皆さんは、どうですか。「仏さんはいらつしやいますか」と考えることが大事なんです。答えを知っているから良いというのではない。「仏さんはどこにいらつしやいますか」という問いをもつことが救いになるんですよ。答えを知っていることが救いではありません。

お念仏させて頂く

私は、平野修先生から、浄土教というのはどういうものか、はつきりさせて頂きました。平野先生は、「法蔵菩薩は私にかわって、私がしなければならぬ身と心の修行を全部してくれ、その功德を南無阿弥陀仏に込めて私の前に差し出して下さっている。私のしなければならぬことは、その念仏を受け取るのか、受けとらないのか、だけである」と。

それを聞いて、「へね、あつけないなあー」と思いながら、同時に、「なるほど、



そういうことだったのか」と思いました。

沖縄で自分の病院の二階を聞法道場にされている志慶眞先生は、「良いところがあるのだが煩惱に汚染されている、というのはなく、煩惱に顔をつけたのが私です」と言われています。そのように、仏の智慧によって、救われようのない自分であることに気づく中で、「かたじけなくも、お念仏が届けられていた。お念仏させて頂きましたよ」と、お念仏を受け取っていくのが浄土真宗の教えなんです。

聞き書き担当者・感想

「あなた、小さな殻を出て、大きな世界を生きなさいよ」と何回となく呼びかけられました。私は自分の思いについても囚われてしまいます。私の質問に、先生は「如来さまは、そんなおまえだから捨てておかない」と教えて下さいました。念仏申していきます。(香田紀子)

第13回(3月9日)

「宗祖の問い」

伊藤 元先生

(北九州市・徳蓮寺前住職)